第1章 全体ビジョン

第1節　都市景観の現況と課題

Chapter 1

Section 1

１．さいたま市の概況

都市景観の形成を図る上で、地理的要因や歴史的な背景を顧みることは重要です。ここでは、本市の広域的位置と都市形成の経緯についてまとめています。

（1）広域的位置

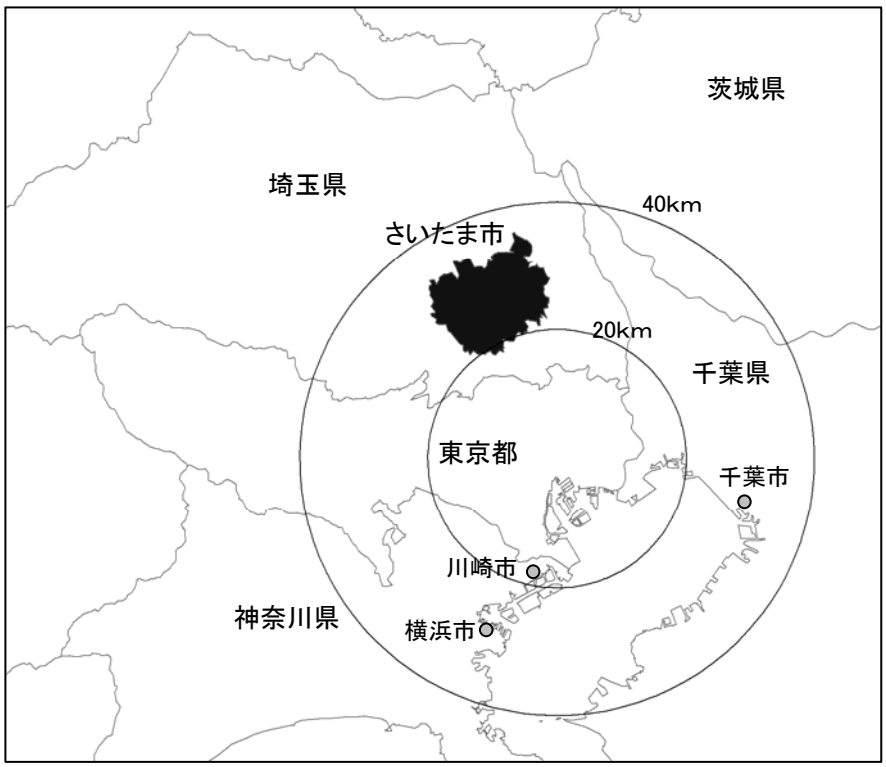
本市は、埼玉県の南部、東京都心から 20～40km 圏に位置しています。市域は、東西 19.6km、南北 19.3kmの広がりをもち、面積は217.49km²となります。内陸都市であり、東は春日部市・越谷市、西は川越市・富士見市・志木市・朝霞市、南は川口市・蕨市・戸田市、北は上尾市・蓮田市・白岡町にそれぞれ接しています。

市内の鉄道網は、JRの東北新幹線、上越新幹線、秋田新幹線、山形新幹線、長野新幹線、宇都宮線、高崎線、京浜東北線、川越線、武蔵野線、埼京線と東武野田線、埼玉新都市交通ニューシャトルおよび埼玉高速鉄道線が整備され、中でも大宮駅は新幹線5路線を含む鉄道の結節点であり、東北・上信越方面から首都圏への玄関口となっています。

市内の道路網は、東北自動車道、国道 17 号、国道 463 号、新大宮バイパス、東・西大宮バイパス、東京外環自動車道などが走り、高速埼玉大宮線・高速埼玉新都心線は東京都心部に直結しています。

このように、本市は政令指定都市(*)、県庁所在地であるとともに、広域的には多彩な都市活動(*)が展開される東日本における交流拠点都市として発展していくことが期待されています。

■広域図



（2）都市形成の経緯

●原始～中世

本市は、縄文時代の貝塚や住居跡などが多数発見されていることから、古くから地の利に恵まれ、人々が生活をしていたことが知られています。縄文時代には、低地部分が海になっていた時期もあり、貝塚や遺跡が台地の縁辺部に数多く分布しています。

室町時代には岩槻城が築かれ、太田氏、北条氏がこの地を治めました。

●近世

江戸時代には中山道が整備され、大宮、浦和が宿場町として栄えていきました。さらに日光に東照宮が造立（ぞうりゅう）され、日光御成道が整備されると、岩槻城は徳川譜代の大名の居城となり、将軍が参詣する日光社参（しゃさん）の際の宿泊城となりました。岩槻城下町は市宿（いちじゅく）町、久保宿町は宿として機能し、大門宿も整備されました。

また、戦国時代に発達した土木技術が河川の築堤、改修などによる流域開発や用水路整備による原野開発などの事業に引き継がれ、新田開発が盛んに行われました。中でも農業灌漑（かんがい）施設として整備された見沼溜井が干拓され、新田開発が行われるとともに、見沼代用水や見沼通船堀も整備されました。また、水運も発達し、見沼代用水、芝川、綾瀬川、荒川や元荒川沿いでは河岸場が設けられました。

●近代以降

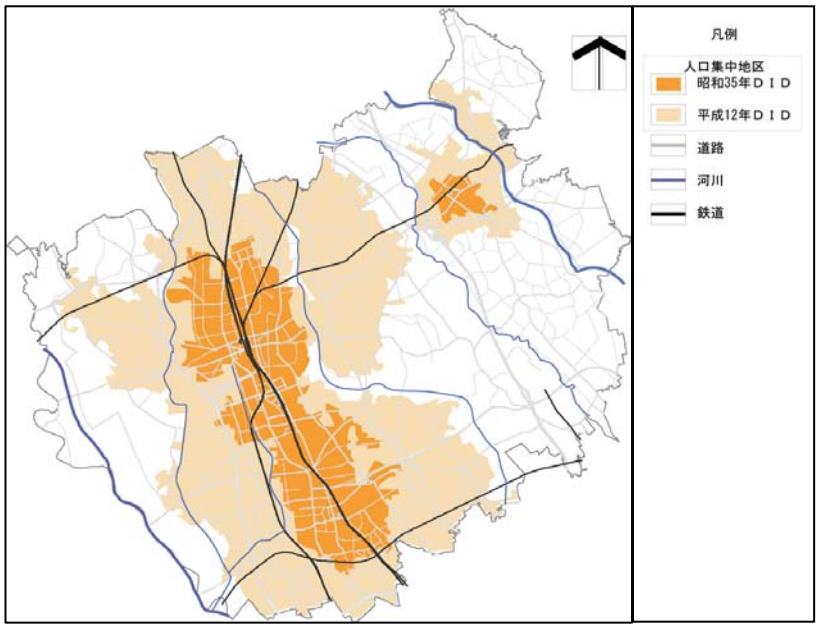
明治2年に浦和に県庁が設置され、浦和県となりました。同4年の廃藩置県を経て、忍県（おしけん）、岩槻県等との合併によって埼玉県となった後、県庁所在地として発展しました。

明治 16 年には高崎線の開通により浦和駅が、同 18 年には高崎線と東北線の分岐駅となる大宮駅がそれぞれ設置されました。明治 27 年には日本鉄道会社大宮工場（のちの国鉄大宮工場）が開業し、大宮は鉄道のまちとして発展していきました。また、関東大震災を契機に盆栽村が形成され、新たな文化が生まれました。

昭和に入ると、幹線道路(*)や鉄道網が発達してきました。戦後は、経済の発展に伴う首都圏への人口の集中が進むのを背景として市街地は拡大し、人口も増加していきました。

平成 13 年5月に浦和、大宮、与野3市の合併により「さいたま市」が誕生し、平成 15 年4月には全国で 13 番目の政令指定都市へと移行しました。さらに平成 17 年4月には岩槻市が合併し、人口 118 万人の大都市となりました。

■市街地形成状況図



資料：さいたま2005まちプラン

２．都市景観の現況

ここでは、都市景観を自然景観、歴史文化景観、市街地景観、暮らしの景観の4つに分類し現況を整理しています。

（1）自然景観の現況

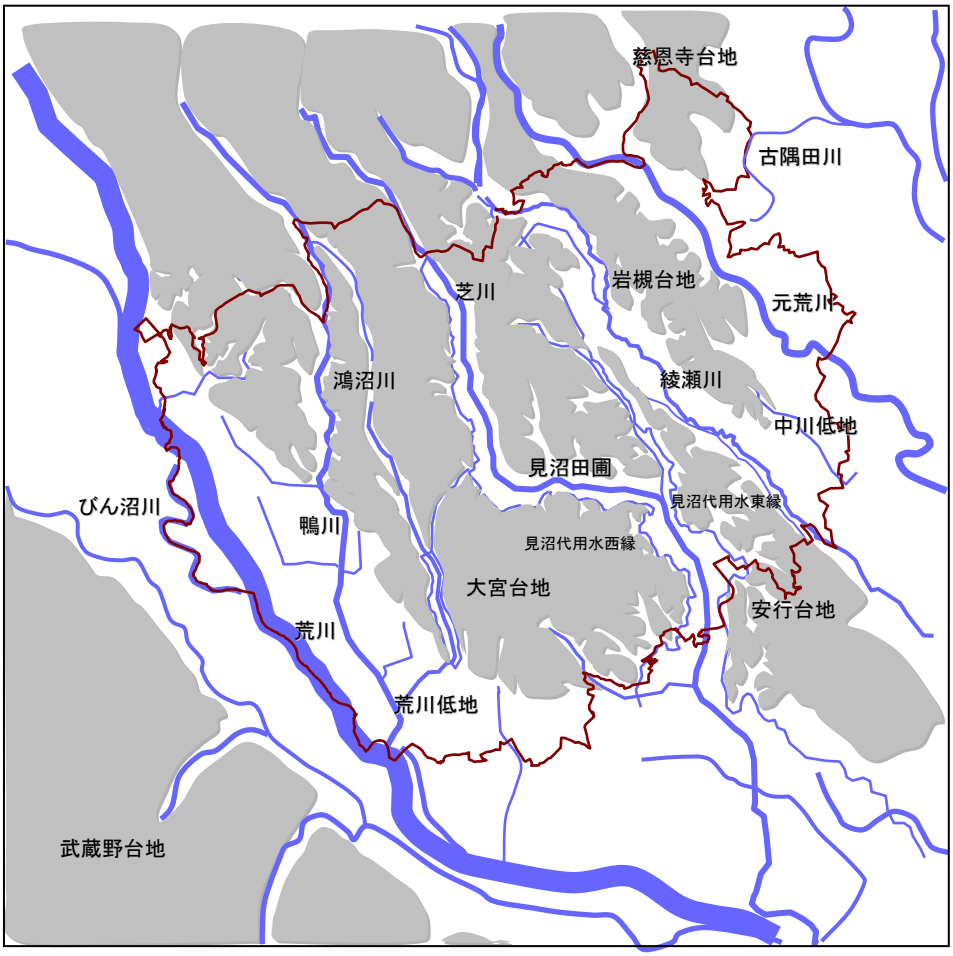
①地形

本市の地形は、台地とその間を流れる河川および低地から形成されていますが、高低差が約 16 mと少なく全体的に平坦です。

台地は、大宮台地、岩槻台地、慈恩寺台地、安行台地からなっています。これらの台地は、15～20mほどの標高で、軟質な関東ローム層が 4～5mほどの厚さで堆積しており、雨水の浸食を受けて浸食谷が形成されています。このため、数多くの谷戸(*)が切れ込んでおり、非常に複雑な微地形を形成しています。

低地は、荒川周辺に荒川低地、岩槻台地の東部から南部にかけて中川低地が広がっています。また、芝川周辺に形成された低地は見沼田圃と呼ばれ、台地の縁辺部に残っている斜面林(*)とともに、首都圏における貴重な大規模緑地空間を形成しています。

■さいたま市の地形



②河川・水路

本市には、河川・水路が多く流れており、豊かな水辺の景観を形成しています。

荒川は本市で唯一山岳から流れてくる河川で、広大な河川敷を伴い、開放感のある景観が広がっています。河川敷には、田島ケ原サクラソウ自生地をはじめとする貴重な自然が残されているとともに、広大なレクリエーション空間となっています。

元荒川は、自然の姿を残した水辺景観となっており、周辺には樹林地や農地などが見られます。

その他の河川では、鴨川、鴻沼川、芝川、綾瀬川などがあり、身近な水辺の景観を形成しています。また、見沼田圃に沿って流れている見沼代用水東縁・西縁には、桜並木や遊歩道などが整備されているところもあり、見沼田圃と一体となった貴重な自然景観を形成しています。

広がりのある水とみどりの景観をつくり出している荒川（西区）

一部に桜が植栽されている鴨川（西区）

③池沼

池沼には、別所沼、白幡沼や慈恩寺沼（慈恩寺親水公園）などが挙げられるほか、岩槻城址公園、大宮公園などの公園の池や、深作調節池も見られます。

親水公園として整備された慈恩寺沼（岩槻区）

市街地内の貴重な水辺景観をつくり出している白幡沼（南区）

④樹林地

本市には、武蔵野の原風景である雑木林や屋敷林(*)などの樹林地が多く残されています。

樹林地は小規模なものが点在していることが特徴で、特に市街化調整区域(*)の荒川河川敷、西区北部、見沼田圃周辺、岩槻区北部・南部などに多く分布しています。市街化区域(*)内では、西区、見沼区、緑区、岩槻区に多く分布し、特に大宮公園・氷川神社一帯は、都心部のなかの大きなみどりを形成しており、それに続く氷川参道のケヤキ並木と合わせた氷川の杜は重要な景観資源となっています。

見沼代用水東縁・西縁、岩槻台地縁辺部などには斜面林が連なってみどりのふちどりを形成しています。とりわけ見沼田圃と一体となった斜面林は、本市を代表する景観となっています。また、大宮台地南端の市街地においても、わずかですが台地端の斜面林を見ることができます。

しかし、これらの樹林地のみどりは減少の一途をたどっており、特に市街地では開発や相続などによって著しく減少しています。

樹林地のみどりを保全するために、都市緑地法に基づく特別緑地保全地区(*)や市の条例に基づく自然緑地(*)や保存緑地(*)などを指定しているほか、県の条例に基づくふるさとの緑の景観地(*)に指定されているところもあります。また、さいたま緑のトラスト運動によるトラスト保全地区(*)として、見沼田圃周辺の斜面林や小川原家屋敷林が公有地化されています。

大きなみどりの景観を形成している氷川の杜
（大宮区）

⑤農地

荒川周辺、綾瀬川周辺、元荒川周辺の低地には水田を中心として農地がまとまっており、台地上には野菜や果樹などの畑が点在しています。見沼田圃の区域は農地が約 40%を占めていますが水田は約8%と少なく、その他は野菜畑や苗圃（びょうほ）などとなっています。近年、急激な都市化の進展に伴う宅地への転用などにより、農地は減少傾向にあります。

岩槻南部の水田と背後の岩槻台地の斜面林（岩槻区）

■自然景観現況図

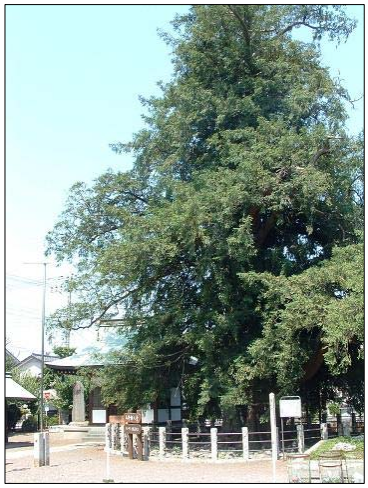
参考:平成 17 年 埼玉県都市計画基礎調査

（2）歴史文化景観の現況

①社寺

社寺は、氷川神社をはじめとして、市域に多く分布しています。多くの社寺は豊かなみどりを擁しており、地域の歴史を伝える重要な景観を形成しています。また、天然記念物などの巨木も社寺に多く残されており、まちのシンボルとなっています。

氷川神社（大宮区）



与野の大カヤ（中央区）
〔国天然記念物〕

②建造物

長屋門、岩槻城にまつわる建造物や見沼通船堀をはじめとする土木遺産などが建造物の景観資源として挙げられます。

日光御成道沿いにある大門宿本陣表門（緑区）
〔県史跡〕

見沼通船堀（緑区）〔国史跡〕

③古墳

稲荷塚古墳、本杢古墳など市内の西部を中心に多くの古墳が分布しており、歴史を伝える資源として保存されています。

稲荷塚古墳（大宮区）〔市史跡〕

本杢古墳（桜区）〔市史跡〕

④歴史的な街並み

●岩槻城址とその周辺

岩槻城は室町時代末期に築城され、戦国時代、江戸時代を通じて存続しました。城郭の西側には、武家屋敷、町屋などからなる城下町が形成されました。

岩槻城は明治4年に廃城されましたが、城郭の南東に位置していた新曲輪(*)、鍛冶曲輪などの部分が県の史跡に指定されました。現在は一部が岩槻城址公園として整備され、土塁や空堀などが中世城郭の面影を伝えています。また、城下には、武家屋敷（侍屋敷）跡の雰囲気を残している地区もあります。

公園として整備されている岩槻城址（岩槻区）
〔県史跡〕

岩槻城下の武家屋敷跡の街並み（岩槻区）

●盆栽村

盆栽村は、関東大震災により被災した東京の植木職人や盆栽業者が移り住んで大正 14 年頃に誕生しました。

盆栽村は、みどりと一体となった風格ある文化的な街並みを形成しており、今日では海外でも高い評価を受ける盆栽のメッカとして国内外に広くその名が知られています。

盆栽村一帯は風致地区(*)に指定されていますが、敷地の細分化によるみどりの減少や周辺と調和しない屋外広告物(*)が見られるなど、良好な景観が失われる傾向にあります。

みどりの多い景観が形成されている盆栽村
（北区）

多くの盆栽愛好家が集まりにぎわいをみせる大盆栽まつり（北区）

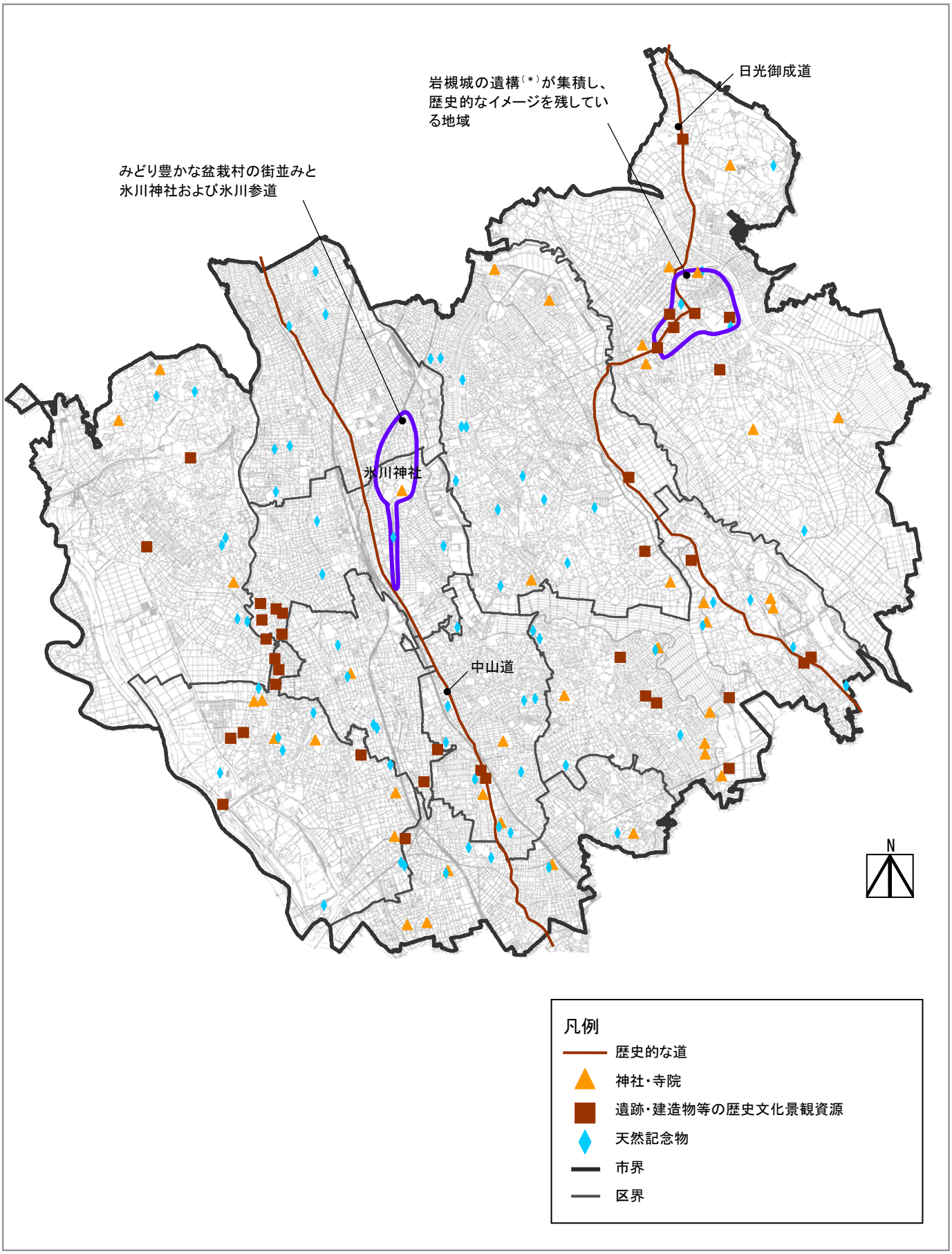
⑤歴史的な道とその周辺

日光御成道沿いには、往時をしのばせる杉並木や一里塚(*)が残っているほか、市宿通り(*)では歴史を生かした景観づくりが進められています。また、中山道沿いには、一部に宿場町の歴史に配慮した建築物などが整備されています。このほか、かつての鎌倉街道の道筋にあたる本町通り沿いには、蔵づくりの街並みがわずかに残っています。

日光御成道に残る往時をしのばせる杉並木
（岩槻区）

中山道の面影を残す建築物（浦和区）
〔第1回さいたま市景観協力賞受賞〕

■歷史文化景観現況図



参考：さいたま市文化財マップ